

平成 20 年 10 月 20 日

湖北町長南部厚志



下記により回答します。

様式①	①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など
様式②	②－１地域の現状と抱える課題
様式③	②－２地域の目指すべき将来像
様式④	③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

今後の道路行政についての意見提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

滋賀県 湖北町

未整備地域と整備が進んだ地域の差異が地域のあり方にも影響を及ぼしており、災害や救急医療等への対応の遅れなど、地域に応じた解決すべき課題は依然として多く存在しています。

高度成長期に整備され、建設後50年以上経過した橋梁、トンネルは10年後にはそれぞれ現在の約4倍、約3倍に達し、老朽化が今後集中的に進み、橋梁やトンネルの大規模な更新時代が到来すると言われています。

当町にも老朽化した橋梁があり、長寿命化の図っていますが、改修が必要であり支援の検討をお願いします。

また、道路形態において急カーブの緩和や、右折レーンの設置など、安全性を確保するため改良をしなければならない箇所があり、早期の改良をお願いします

今後の道路行政についての意見提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

滋賀県 湖北町

○現状

・国道8号線 朝夕の通勤など、一部渋滞が生じており、追突事故なども発生している。また、歩道の幅員が狭く、すれ違いができないなど不便をきたしており大変危険な箇所がある。特に積雪時には歩道が通行できず、車道を通行している状況である。

・国道8号線 馬渡橋 消雪排水の流末処理ができておらず、大量の消雪水が落下して洗堀されている。

・北陸自動車道路 湖北地域は、古くから北陸と中京を結ぶ交通の要衝となっており、名神高速道路米原ジャンクションから北へ北陸自動車道路により連絡されており、北陸と中京とを結ぶこれらの経路は益々重要なものとなっていますが、長浜 IC から木之本 IC の距離が 13.9 km と距離があるものの、利用者はどちらかの IC より乗降しなくてはならず不便を感じている。

・国道365号線 冬期において、降雪時に圧雪状態状態になり一般車両も通行が危険な状態である。

・国道365号線 下山田交差点
国道365号線と町道とが交わる交差点は、見通しが悪く死亡事故も発生している。

○課題

・交通量の増大への対応、渋滞対策の為のバイパスの早期整備。

・交通弱者の安全確保としての歩道対策。
積雪時の歩道の確保。

・消雪水を管路で導くなど、適切な流末処理対策。

・IC アクセスの改善として中間点である湖北町にスマートインターチェンジを設置することで利便性を図る。

・冬期、降雪時の道路の確保
アイスバーン 除雪対策

・事故対策 交差点改良

・国道8号線

国道8号線バイパスを整備し、生活基幹道路として定時性や速達性を備えたネットワークとしての機能を確保することにより、地域において渋滞対策を兼ねた安全で快適な移動を実現する。

・歩道整備

これまでは自動車交通への対応に重点を置かれてきたようだが、地域によっては歩行者や、自転車を優先し、沿道と一体となった生活空間として捉えた道路の整備・利用を図る

・基幹ネットワーク

北陸自動車道路の長浜ICから木之本IC間の中間点である湖北町は、国道365号線と北陸自動車道路が最も近距離で接する場所であり、接点となる位置にあります。このようなところに位置する湖北町に「スマートインターチェンジ」を設けることによって、より効率的、広域的な人と物の移動が可能になり、企業誘致や観光振興、近隣一般道路の渋滞緩和、防災対策などを目的に、地元定着も含めて地域産業の振興や広域経済物流の拠点としたまちづくりを図る。

また、ETCを活用した多様な料金施策が展開されており、有料道路利用者へのサービスの推進に繋がることで、使える高速道路を目指す。

・国道365号線

冬期の365号線は、降雪時にアイスバーンとなり大型車の通行により道路の凹凸がひどく一般車両の通行に支障をきたす状態です。降雪時の道路の確保等、地域に応じた柔軟な除雪対策により安全な通行を確保することが必要です。

・下山田交差点 交通事故対策

危険な交差点を改良することで、安全・安心な道路交通環境の実現を目指す。

今後の道路行政についての意見提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

滋賀県 湖北町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
スマートインターチェンジの整備		スマートインターチェンジを設けることによって、より効率的、広域的な人と物の移動が可能となり、企業誘致、観光振興、周辺道路の渋滞緩和、防災対策、傷病者の高速搬送など、高速道路が使える道路となるよう、今後もスマートインターチェンジとあわせてアクセス道路の計画・設計等について、技術的な支援と財政支援をお願いします。	

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
国際競争力の強化のための交通サービスの向上及び地域活力の向上	国道 8 号線バイパス北進計画の早期実現 現道は、近年の自動車輸送の大型化や著しい交通量の増加及び沿道の開発等により輻輳する自動車交通を処理しきれず、その機能は著しく低下しております。こうしたことから、湖北地域、彦根市から西浅井町間では、既に長浜バイパスが整備され、また、米原バイパス、塩津バイパスも現在整備が進行中ではありますが、未整備区間の長浜市から木ノ本町間は幅員も狭く、物流と生活交通による慢性的な混雑が生じております。安全・安心のまちづくりを進めるために、また、経営・企業活動において、立地困難な地域が創意・工夫・知恵の競争に参加できる基盤の構築のためにも、国道 8 号バイパス北進計画が早期実現されることが、湖北地域住民の願望であります。	沿道への民間投資を誘発し地域経済活動活性化の起爆剤となり沿道利用型の商業化が進展するなど、人、物の流通に重要な役割を果たし地域振興の基盤となります。 また、現道は部分的に集落内を通過し、騒音や振動と事故の危険性が大きく、バイパス整備は通過交通の排除により安心、安全な道、渋滞の緩和が図られます。	滋賀県が策定した「滋賀県における自主的な市町の合併推進に関する構想」を受けて長浜市と虎姫町、湖北町、高月町、木ノ本町、西浅井町、余呉町の合併にむけ取り組んでいるところであります。 国道 8 号バイパスの北進は、当該地域の一体化と新市のまちづくりにも、是非とも必要となります。